



# 令和8年度 果樹情報 第3号

(令和8年4月22日)

果樹の開花、防霜対策と病虫害防除対策  
福島県農林水産部農業振興課



## 1 気象概況 (4月中旬、果樹研究所)

平均気温は、3半旬が13.7℃で平年より2.4℃高く、4半旬が13.9℃で平年より1.8℃高く経過しました。

この期間の降水量は5.0mmで平年比18.2%と平年よりかなり少なくなりました。日照時間は、87.8時間で平年比122%と平年より多くなりました。

## 2 土壌水分 (4月20日現在、果樹研究所)

4月20日時点の土壌水分(pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水)は、深さ20cmで2.4、深さ40cmで2.1、深さ60cmで1.9となっており、適湿状態です。

## 3 発育状況 (4月21日現在)

### (1) 農業総合センター果樹研究所 (福島市飯坂町)

ア なし「幸水」の満開は4月15日で、平年より9日早くなりました(表2)。

イ りんごの開花は、「つがる」が4月16日で平年より8日早く、「ふじ」が4月15日で平年より9日早くなりました(表2)。

りんごの満開は、「つがる」が4月21日で平年より7日早く、「ふじ」が4月19日で平年より9日早くなりました(表2)。

ウ おうとう「佐藤錦」の開花は4月12日で平年より5日早く、満開は4月18日で平年より6日早くなりました(表2)。

エ ぶどう「巨峰」の発芽は4月15日で平年より1日早く、展葉は4月20日で平年より4日早くなりました(表1)。

### (2) 農業総合センター会津地域研究所 (会津坂下町)

ア かき「会津身不知」の展葉は4月15日で、平年より12日早くなりました(表3)。

イ りんご「ふじ」の開花は4月19日で、平年より11日早くなりました(表3)

表1 各樹種(品種)の発芽および展葉状況(農業総合センター果樹研究所)

樹種	品種	発芽観測日			展葉観測日		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
ぶどう	巨峰	4月15日	4月16日	4月18日	4月20日	4月24日	4月24日

注) 平年は1998~2025年の平均値

表2 各樹種(品種)の開花および満開状況(農業総合センター果樹研究所)

樹種	品種	開花始観測日			開花盛観測日		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
もも	あかつき	4月4日	4月12日	4月9日	4月10日	4月18日	4月15日
	ゆうぞら	4月6日	4月12日	4月10日	4月10日	4月18日	4月16日
なし	幸水	4月11日	4月19日	4月17日	4月15日	4月24日	4月20日
	豊水	4月7日	4月15日	4月14日	4月12日	4月20日	4月18日
りんご	つがる	4月16日	4月24日	4月21日	4月21日	4月28日	4月25日
	ふじ	4月15日	4月24日	4月20日	4月19日	4月28日	4月24日
おうとう	佐藤錦	4月12日	4月17日	4月16日	4月18日	4月24日	4月21日

注) 平年は1996~2025年の平均値

表3 各樹種（品種）の発芽および展葉状況（農業総合センター会津地域研究所）

樹種	品種	展葉観測日			開花観測日		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
りんご	ふじ	4月3日	4月11日	4月10日	4月19日	4月30日	4月26日
かき	会津身不知	4月15日	4月27日	4月23日	未	6月3日	6月5日

注) 平年は1996～2025年の平均値

#### 4 発育予測（果樹研究所：4月21日現在、会津地域研究所：4月20日現在）

仙台管区気象台が4月16日に発表した1ヶ月予報（4月18日～5月17日）では、今後の気温は、期間の前半は平年より高く推移し、後半は平年並または高く推移する見込みです。

果樹研究所において、今後の気温経過について気象予報を用いた場合、本年のもも「はつひめ」の硬核期開始日は6月4日ごろで平年より5日早く、収穫開始日は6月30日頃ごろで平年より5日早く、収穫盛期日は7月4日ごろで平年より4日早いと予測されます（表4）。

また、もも「あかつき」の硬核期開始日は6月2日ごろで平年より5日早く、収穫開始日は7月25日ごろで平年より4日早く、収穫盛期日は7月28日ごろで平年より4日早いと予測されます（表5）。なお、今後の気温が2℃高く経過した場合は、「はつひめ」、「あかつき」ともに平年に比べて6～8日生育が早まると予想されるため注意が必要です。

会津地域研究所において、今後の気温経過について気象予報を用いた場合、かき「会津身不知」の開花は6月2日で平年より1日早いと予測されます。なお、今後の気温が2℃高く経過した場合は、平年に比べて6日生育が早まると予想されるため注意が必要です。

表4 もも「はつひめ」の発育予測 [発育速度（DVR）モデルによる発育予測：4月21日現在]

	観測日		気象予報	今後の気温経過		
	昨年	平年		2℃高い	平年並	2℃低い
硬核期開始日	6月7日	6月9日	6月4日	6月1日	6月5日	6月9日
収穫開始日	6月30日	7月5日	6月30日	6月28日	7月1日	7月4日
収穫盛期日	7月4日	7月8日	7月4日	7月2日	7月5日	7月7日

注1) 平年は2010～2025年の平均値。

注2) 今後の気温経過の気象予報とは、気象庁が発表している週間予報、2週間気温予報及び1ヶ月予報気温（3～4週目の平均気温）を反映し、以降の気温は平年並に経過した場合の予測値。

注3) もも「はつひめ」の発育予測は1～2日の誤差があることに留意する。

表5 もも「あかつき」の発育予測 [発育速度（DVR）モデルによる発育予測：4月21日現在]

	観測日		気象予報	今後の気温経過		
	昨年	平年		2℃高い	平年並	2℃低い
硬核期開始日	6月5日	6月7日	6月2日	5月30日	6月3日	6月7日
収穫開始日	7月25日	7月29日	7月25日	7月21日	7月26日	7月30日
収穫盛期日	7月29日	8月1日	7月28日	7月25日	7月29日	8月3日

注1) 平年は1996～2025年の平均値。

注2) 今後の気温経過の気象予報とは、気象庁が発表している週間予報、2週間気温予報及び1ヶ月予報気温（3～4週目の平均気温）を反映し、以降の気温は平年並に経過した場合の予測値。

注3) もも「あかつき」の発育予測は1～2日の誤差があることに留意する。

表6 発育予測日 [予測方法：発育速度（DVR）モデルによる発育予測：4月20日現在]

	開花日		気象予報	今後の気温経過		
	昨年	平年		2℃高い	平年並	2℃低い
会津身不知	6月5日	6月3日	6月2日	5月28日	6月3日	6月11日

注1) 平年は1996～2025年の平均値

注2) 今後の気温経過の気象予報とは、気象庁が発表している週間予報、2週間気温予報及び1ヶ月予報気温（3～4週目の平均気温）を反映し、以降の気温は平年並に経過した場合の予測値。

注3) 発育予測は2～3日の誤差を生じる場合があることに留意する。

## 4 栽培上の留意点

### (1) 防霜対策

耐凍性は生育が進むにつれて低下し、開花期から幼果期にかけて最も弱く、凍霜害の危険性が高くなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。

最新の情報は、福島地方気象台ホームページ「2週間気温予報」や「霜と気温の見通し」を御確認ください。

「2週間気温予報」 : <https://www.data.jma.go.jp/cpd/twoweek/>

「霜と気温の見通し」 : <https://www.jma-net.go.jp/fukushima/shimo/shimo.html>

現在の果樹の生育は、ぶどうを除く各樹種ともに平年より1週間から10日程度早まっています。生育ステージごとの安全限界温度を下回る温度に遭遇するおそれがある場合には、速やかに防霜対策を実施しましょう。

各樹種の生育ステージ別安全限界温度は、農業振興課ホームページの技術資料「作物別凍霜害及びひょう害技術対策（令和8年3月13日一部修正）」を参照してください。

URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html#kisyuu>

事前対策としては、防霜資材を準備するとともに、地温の上昇を図るため下草は5cm程度に刈り込みましょう。また、空気や土壌が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壌水分を確保しましょう（乾燥条件は気温の低下が著しいため）。

なお、降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、人工受粉を徹底し結実確保を図りましょう。特に、花粉がない若しくは少ない品種においては、注意が必要です。

## 5 病害虫防除上の留意点

現在の果樹の生育は、平年より1週間から10日程度早まっています。今後の天候しだいでは、感染が増加するおそれがありますので、気象情報に留意し、生育に応じた計画的な防除を実施しましょう。また、耕種的防除を徹底し、発生密度の低減を図りましょう。

### (1) 病害

#### ア リンゴ黒星病

本病の重要な防除時期は展葉期から落花20日後ごろです。昨年、本病の発生が認められた園地では、落花直後の防除は、効果の高いDMI剤（県病害虫防除指針参照）またはカナメフロアブル4,000倍を十分量散布して被害防止に努めましょう。

#### イ リンゴ褐斑病

果樹研究所における罹病落葉からの子のう胞子の初飛散は確認されていません。近年、子のう胞子の飛散盛期が開花期間に確認されることがあるため、例年本病の発生が多い場合には落花直後にデランフロアブル1,000倍を使用しましょう。

#### ウ モモせん孔細菌病

果樹研究所では、4月17日に春型枝病斑の初発生が確認されています。今後の天候しだいでは、感染が増加するおそれがありますので注意が必要です。

本病は、発生初期の密度抑制が重要なため、定期的にはほ場を巡回し、伝染源である春型枝病斑の早期発見とせん除を徹底し、感染防止を図りましょう。なお、春型枝病斑のせん除は、発病部位が残らないように病斑部の周辺を含めて可能な限り基部から切り戻しましょう（図1）。また、樹冠上部での発生を見逃さないように注意し、直下への被害拡大を防止しましょう。

薬剤防除は、落下直後に本病防除剤、落花10日後にはICジンク水和剤1,000倍を使用し、被害防止に努めましょう。

春型枝病斑の発生は長期間にわたるため、せん除は定期的に複数回実施しましょう。

～モモせん孔細菌病の春型枝病斑の特徴と見分け方～

- 枝の表面が黒ずみ、やがて亀裂が生じて凹む
  - 新葉が赤っぽくなる
  - 新梢葉の伸びが悪い(部分的に芽が枯死している)
- などの症状がみられた場合は、春型枝病斑の可能性が高いため見つけしだいせん除しましょう！

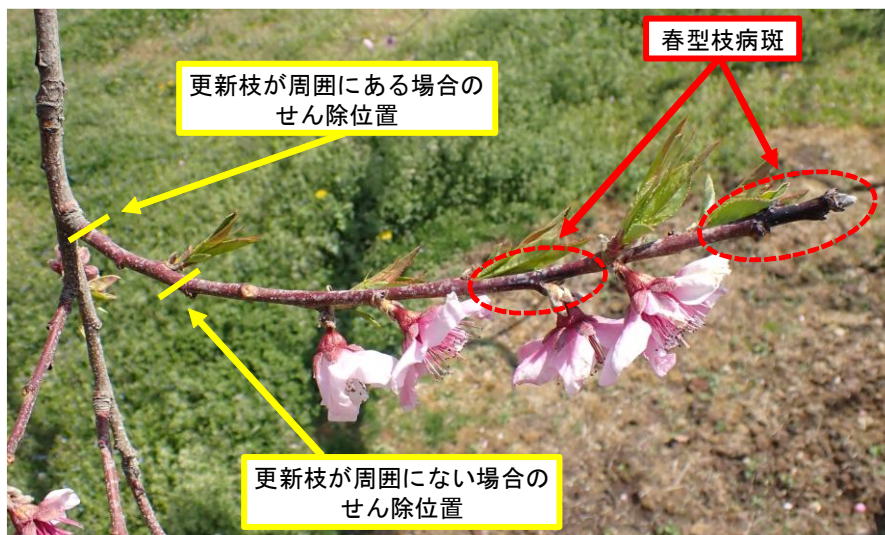


図1 春型枝病斑のせん除位置

エ モモ灰星病

花腐れは果実への伝染源となるので、早めに摘除して適切に処分しましょう。

オ モモうどんこ病

例年本病（「毛じヤケ」を含む）の発生が多い場合には、落花10日後ごろにトリフミン水和剤1,500倍を使用しましょう。

カ ナシ黒星病

本病の重要な防除時期は開花期前後です。薬剤防除は、落花直後に効果の高いDMI剤（県病害虫防除指針参照）を十分量散布しましょう。

花そう基部に発病している場合は、りん片が脱落せずに付着しているため、見つけ次第除去して適切に処分しましょう（図2）。



図2 ナシ黒星病の花（果）そう基部（芽基部）病斑の発見の目安

キ ブドウ黒とう病

本病は前年の被害新梢の病斑部や、巻きひげに潜伏し越冬するため、これらの伝染源の除去を行います。例年本病の発生が多い場合は、展葉2～3枚頃にオーソサイド水和剤80～800倍を散布し、被害防止に努めましょう。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

越冬世代成虫の誘殺盛期は今後の気温が平年より2℃高く推移した場合、4月3半旬ごろと予想され、第1世代幼虫の防除適期は4月4半旬頃と推定されます(表7)。ミツバチ等を導入している園地では、巣箱回収後に速やかに防除を行います。

イ ハマキムシ類

リンゴモンハマキの越冬世代誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合には、5月2半旬ごろと予測され、第1世代幼虫の防除適期は5月5半旬ごろと推定され、リンゴコカクモンハマキもこれに準じると考えられます(表7)。昨年、本種の発生が多かった園地や、現在、花や新葉に被害が見られる園地では、ミツバチ等の巣箱回収後、りんごでは落花直後、なしでは落花1週間後に本種に登録のある殺虫剤を使用しましょう。

また、複合交信かく乱剤はハマキムシ類の越冬世代成虫発生初期に設置することが有効であるため、遅れないように設置しましょう。

ウ リンゴハダニ

リンゴハダニ越冬卵のふ化盛期は、今後の気温が平年より2℃高く推移した場合、4月4半旬ごろと予想されます(表7)。越冬卵密度の高い園地では、落花後以降の発生密度に注意し、要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)に達したら殺ダニ剤を使用しましょう。

エ シロカイガラムシ類

ウメシロカイガラムシ第1世代のふ化開始は、気温が2℃高く推移した場合、5月1半旬頃と予測され、防除適期は5月2半旬頃と推定されます(表8)。クワシロカイガラムシの防除適期はウメシロカイガラムシより5～10日程度遅いです。

カイガラムシ類はふ化定着初期の防除が重要であるため、防除適期を逃さないように防除しましょう。

オ カメムシ類

越冬世代成虫による被害は幼果の段階から発生する場合があります。山間部や山沿いの園地では、カメムシ類の飛来状況をよく観察し、集団的な飛来を確認した場合には速やかに防除を行います。

表7 果樹研究所における防除時期の推定(令和8年4月20日現在)

今後の気温予測	モモハモグリガ		リンゴモンハマキ		リンゴハダニ
	越冬世代誘殺盛期	第1世代防除適期	越冬世代誘殺盛期	第1世代防除適期	越冬卵ふ化盛期
2℃高い	4月14日	4月20日	5月9日	5月23日	4月17日
平年並	4月14日	4月20日	5月15日	5月30日	4月17日
2℃低い	4月14日	4月21日	5月22日	6月8日	4月17日

起算日: 3月1日(演算方法は三角法)

※3月25日の気象データは福島市アメダスを使用、それ以外は果樹研究所の気象データを使用

表8 果樹研究所における防除時期の推定(令和8年4月20日現在)

今後の気温予測	ウメシロカイガラムシ	
	第1世代ふ化開始	第1世代ふ化盛期
2℃高い	5月4日	5月7日
平年並	5月9日	5月13日
2℃低い	5月19日	5月23日

起算日: 1月1日(演算方法は平均法)

※3月25日の気象データは福島市アメダスを使用、それ以外は果樹研究所の気象データを使用

### ～ 中国産の輸入花粉は使用できません ～

国は、中国において火傷病(かしょうびょう)が発生したことを受け、令和5年8月30日に中国からの火傷病菌の宿主となる植物(花粉等)の日本への輸入を停止しました。これにより、中国産のなし及びりんご花粉の供給が停止されます。

- 火傷病に感染した花粉や疑いのある花粉の使用により、本病に感染するおそれがありますので、万一、在庫を保有している場合でも、中国産花粉は使用を控えてください。
- 令和8年及び令和9年産の果実生産に向け、自家採取等による花粉の確保に努めてください。

### 病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行:福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344  
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>